

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立高木瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施されました。この調査は、全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめましたので、その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日〔火曜日〕

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A, 理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B, 理科〕
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などにかかわる内容	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査

■ 調査結果及び考察について

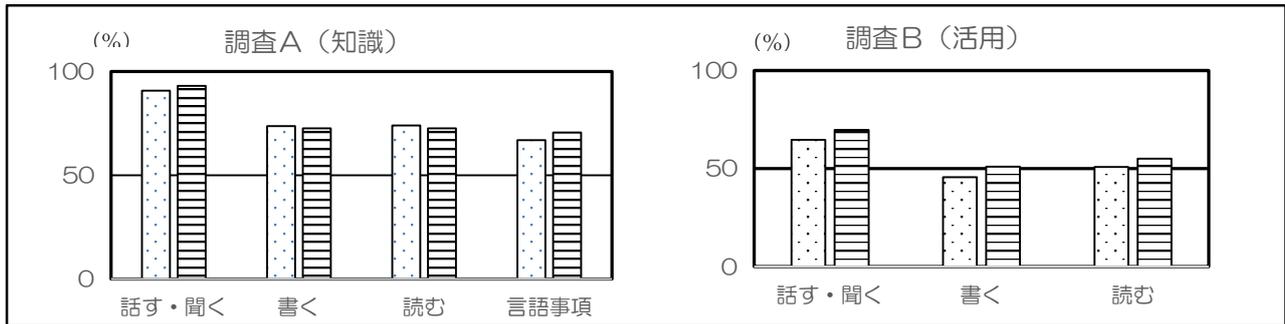
全国学力学習状況調査は、小学校6年生、中学校3年生と限られた学年が対象であり、教科は、国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

1 国語

(1) 全体を通しての結果

全国正答率との比較

■ 全国 ■ 本校



基礎的な知識を問うA問題の「書くこと」「読むこと」以外は、全国平均を上回っていました。A問題の「書くこと」「読むこと」についても全国平均との差は微々たるもので、全体的に良好な状況にありました。また、活用力を問うB問題でも、全領域で全国平均を大きく上回り、良好な学習状況が伺えています。基礎基本の力を今一度見直し、よりよい成長につなげていきたいと考えています。

(2) 領域別の結果と課題

話す・聞く

・質問者の意図をとらえたり、計画的に話し合うための司会の役割をとらえる等の「話す・聞く」問題の正答率は大変高いといえます。ただ、まだ自分の考えと比較して聞く活動の体験が少ないので、今後は自分の意見と比べて考える活動も取り入れていきたいと考えています。

書く

・自分の想像したことを物語表現するために、文章全体の構成を考える問題にやや課題がありました。文章を書く前に構成を考えさせたり、今後は、字数を指定する等の条件のついた作文問題も授業中に取り上げていきます。しかし、他の問題は全て良好な学習状況にありました。特に目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考える問題は10ポイント以上高い成績でした。今後はさらに複数の情報を比較しながら、自分の考えを簡潔に記述する力を身につけさせたいと考えています。

読む

・登場人物の心情について、状況描写をもとに考える問題にやや課題が見られましたが、その他の問題については全て全国平均を上回っていました。目的に応じて複数の文章を選んだり、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にして読む力が定着しています。

言語事項

・漢字の読み・書き取りにおいては、一問の除いて全ての問題で全国平均を上回りました。また、敬語や慣用句の定着も良好でした。今後もさらに意欲が高まるよう工夫し、継続して取り組んでいかせたいと考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 記述力をさらに高めるために、条件に沿って文章を書いたり、指定の文字数で要件を伝える文章を書いたりする活動を、スキルタイムや授業に取り入れます。
- 「話す・聞く」力をつけるために、まなび部を中心に、授業中の発言の仕方や呼応の仕方、話の聞き方について提案し全校で取り組みます。
- 学習のふりかえりの時間を大切にして、主体的な学習態度の育成を目指します。

【ご家庭では】

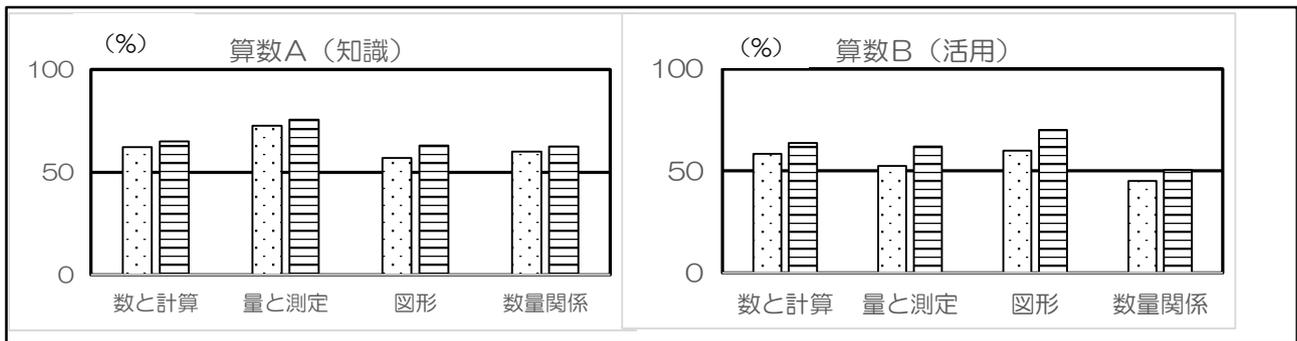
- 家庭での会話の中に新聞記事を取り上げるなど、自分の考えを述べる経験が積めるように心がけてください。
- 音読や漢字の書き取りなど家庭学習に目的をもって取り組ませ、何ができたのか、具体的にほめることが学習意欲の向上にもつながります。
- 本を読む習慣や文章を書く習慣をつけさせましょう。親子読書や日記がおすすめです。

2 算 数

(1)全体を通しての結果

全国正答率との比較

全国 本校



基礎的な知識を問うA問題と活用力を問うB問題の両方とも、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」全ての領域で全国平均を上回っています。特に、A問題の「図形」B問題の全領域とも全国平均を5ポイント以上上回っています。中には10ポイント以上上回る領域もあり、良好な学習状況がうかがえています。今後も児童の思考の連続を意識した授業づくりを進めていきたいと考えています。

(2)領域別の結果と課題

数と計算

- ・A問題の「除法で表すことのできる二つの数量の関係の理解」以外の全ての問題で、全国平均は上回っていますが、「小数の除法」「棒グラフや帯グラフの読み取り」や「根拠を明確にして記述する」問題等はまだまだ理解が不十分と言えます。

量と測定

- ・A問題の「単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解」以外の問題で、全国平均は上回っていますが、「分度器の読み取り」や「図形の構成要素や性質をもとに角の和を求める」問題等ではまだ課題が見られました。

図形

- ・全ての問題で全国平均を上回っていますが、「円周率の意味理解」や「図形の構成要素や性質をもとに角の和を求める」問題等ではまだ課題が見られました。図形の基本的な構成要素を確実に理解させたいと考えています。

数量関係

- ・A問題の「除法で表すことのできる二つの数量の関係の理解」以外の全ての問題で、全国平均は上回っていますが、「メモの情報とグラフを関連付け総数や変化に着目して理由を記述する」問題や「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断する」問題は正答率がかなり低いものでした。資料を比較したり、記述する力を今後は育成していきたいと考えています。

(3)学力向上のための取り組み

【学校では】

- 木曜日に、算数の朝のスキルタイムを設定し、基礎的な技能の確実な習熟を行います。また習熟差に対応して、理解が不十分な児童の支援に全職員で取り組みます。
- 校内研究では、課題解決型学習の定着を図り、「学び合い」と「振り返り」をテーマに掲げ、児童の思考の練り合いを意識した授業づくりを行っています。
- ノート指導を充実させて、きめ細やかな指導、児童が分かる授業に努めます。

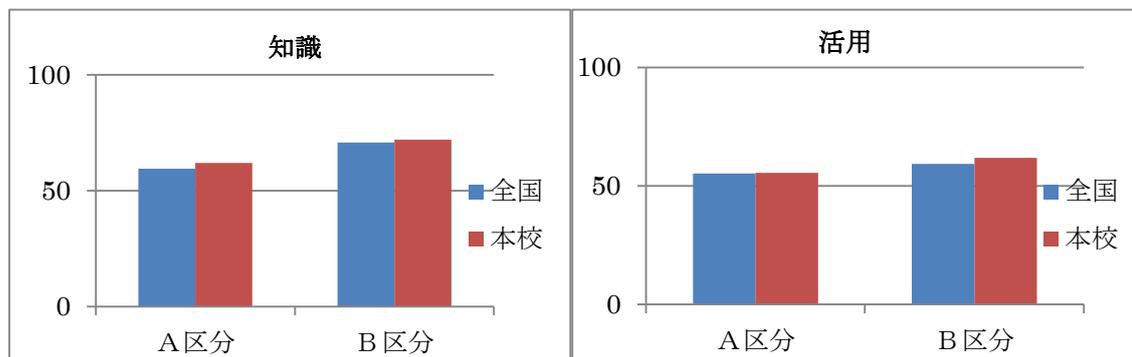
【ご家庭では】

- お子さんの「何を学習しているか」「どれくらい理解しているのか」など学習状況を把握し、たまには一緒に難しい問題を解き、学習を通してお子さんとコミュニケーションをとっていただくと、お子さんのやる気アップにつながります。
- 一緒に買い物をする時などに、算数で学んだことを日常生活の中で生かす場面をつくってあげてください。「便利だな」「おもしろいな」「役立った」と思う経験が、学習意欲につながります。

3 理科

(1)全体を通しての結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問う問題と活用力を問う問題のB区分(生命・地球)は全国平均を上回っています。活用力を問う問題のA区分(物質・エネルギー)は全国平均を下回っています。

(2)区分別の結果と課題

A区分(物質・エネルギー)

- ・物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用する問題では、正答率が高かったです。目に見えない状態になっても、全体の総和は変わらないことを抽象的に考えることができていると考えられます。
- ・乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用する問題は、正答率が低かったです。実験結果が予想と違ったときに、その要因について考える必要があります。

B区分(生命・地球)

- ・土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を基して実験を起こそうする問題は、正答率が高かったです。目的に応じて実験方法を選択することができます。
- ・より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題では、正答率が低かったです。実験結果が予想と違ったときに、その要因について考える必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 学習問題を解決するために、予想を立て、観察、実験の方法を考えたり、選択したりして観察、実験を行います。
- 観察、実験の結果の表やグラフなどに整理してから考察できるようにします。また、予想と違った結果になった場合に、観察、実験の方法を振り返り、適切な方法で観察、実験が行っていたかを考えることができるようにします。

【ご家庭では】

- お子さんの身の回りには「あれ?」「どうなっているのだろう?」と思えることがたくさんあります。お子さんが素朴に発する「なぜ?」「どうして?」を大切にしたいです。それに対して、その場で答えを出すことも一つですが、一緒に考えたり、考えるヒントを与えたりすることでお子さん自身が、「考えること」を楽しむことができるようにしてください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

児童の生活や学習に対する意識について質問した中で、学習状況に大きく影響する主な設問について取り上げました。ここでの割合は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」をあわせた数値です。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校 (%)	全国平均 (%)
週末に、家や学校、学習塾などで勉強や読書をしている。	83.8	89.0
平日、家や塾などで1日当たり2時間以上勉強をしている。	22.3	29.3
平日、家や塾などで1日当たり勉強時間が1時間未満である。	37.6	33.7
家で、学校の授業の予習をしていますか。	59.0	62.6
家で、学校の授業の復習をしていますか。	59.0	62.6
家の人と学校での出来事について話をしますか。	79.5	80.5
普段(月～金)1日当たり30分以上読書を読みますか。	38.5	41.1

《生活習慣について》

調査の項目	本校 (%)	全国平均 (%)
朝食を毎日食べていますか。	96.6	94.5
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	70.1	77.0
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	88.0	88.8
普段(月～金)放課後にテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりインターネットをしたりしていますか。	75.2	81.0
新聞を読んでいますか。	34.1	38.9
テレビやインターネットでニュースを見ますか。	81.2	86.2
自分にはよいところがあると思いますか。	82.9	84.0

(2) 改善に向けた取り組み

【学校では】

- 授業での学習内容を、その日の自宅学習に生かすような宿題の内容や分量の工夫をすることで、自宅学習の質を高め時間を確保します。
- 学校全体で学習や生活について、一人一人の児童の伸びを見逃さずに、認め励ますことで自己肯定感や向上心を高めます。
- 新聞やニュースなどを学習活動に取り入れ、社会への関心を高めます。
- 学級通信やホームページを通じて情報を発信し、家庭で学校での様子やこれからのこと等を話題できる環境をつくれます。
- 読み聞かせや良書推薦、親子読書などを活発に行い、読書への関心を高めます。

【ご家庭では】

- 早寝早起き、正しい食習慣、家庭学習など、時間の上手な使い方や規律正しい生活を習慣づけることが大切です。
- 予習と復習など家庭学習の習慣化のため、落ち着いた雰囲気を取り組ませてください。
- 学校や地域の身近な話題を、家族の会話で取り上げるよう心がけてください。
- テレビやゲーム等のルールを話し合い、生活のリズムを整えさせるように心がけてください。